

社会学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
理論社会学特論Ⅰ	ハーバーマスの社会理論	2	永井彰	後期 水曜日 2講時	理論社会学特論
理論社会学特論Ⅱ	リスクと無知の社会学	2	小松丈晃	後期 火曜日 4講時	理論社会学特論
社会変動学特論Ⅰ	都市社会学：まちづくりのプロローグ	2	大井慈郎	前期 月曜日 3講時	社会変動学特論
社会変動学特論Ⅱ	死と死にゆくことの社会学	2	田代志門	前期 水曜日 2講時	社会変動学特論
社会学特論Ⅰ	質的フィールドワーク概論	2	徳川直人	前期 水曜日 3講時	社会学特論Ⅰ
社会学特論Ⅱ	農村社会と農村社会学	2	佐久間政広	前期 火曜日 5講時	社会学特論Ⅱ
社会学特論Ⅲ	フランス社会学史と現代思想	2	太田健児	後期 水曜日 4講時	社会学特論Ⅲ
社会学研究演習Ⅰ	質的社会調査法	2	小松丈晃	前期 金曜日 2講時	地域社会学研究演習Ⅰ
社会変動学研究演習Ⅰ	都市社会学：まちの描き方	2	大井慈郎	前期 月曜日 4講時	社会変動学研究演習Ⅰ
社会変動学研究演習Ⅱ	調査から理論をうみだす技法	2	田代志門	後期 火曜日 2講時	社会変動学研究演習Ⅱ
理論社会学研究演習Ⅰ	リスクと不確実性の社会学	2	小松丈晃	前期 火曜日 2講時	理論社会学研究演習Ⅰ
理論社会学研究演習Ⅱ	ハーバーマスの現代福祉国家論	2	永井彰	後期 水曜日 5講時	理論社会学研究演習Ⅱ
社会学研究実習Ⅰ	社会調査実習（１）	2	小松丈晃	前期 金曜日 3講時 前期 金曜日 4講時	社会学調査実習Ⅰ
社会学研究実習Ⅱ	社会調査実習（２）	2	小松丈晃	後期 金曜日 3講時 後期 金曜日 4講時	社会学調査実習Ⅱ

科目名：理論社会学特論 I / Theoretical Sociology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：永井彰

コード：LM23212 科目ナンバリング：LIH-SOC601J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：理論社会学特論】

1. 授業題目：ハーバーマスの社会理論
2. Course Title (授業題目)：Social Theory of J. Habermas
3. 授業の目的と概要：ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of the logic of the social theory of Habermas, to help students learn about sociological concepts and theory.
5. 学習の到達目標：
ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help understand the logic of the social theory of Habermas.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. ハーバーマス研究の視座と方法
 3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (1)
 4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (2)
 5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (3)
 6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (4)
 7. コミュニケーション行為理論の論理構造 (1)
 8. コミュニケーション行為理論の論理構造 (2)
 9. コミュニケーション行為理論と公共圏論
 10. コミュニケーション行為概念の再規定
 11. 生活世界論の再構成
 12. 生活世界とシステム
 13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法
 14. 再構成的社会学の可能性
 15. 講義のまとめ
8. 成績評価方法：
(○) リポート [50%] (○) その他 (受講票の提出など) [50%]
9. 教科書および参考書：
永井 彰『ハーバーマスの社会理論体系』東信堂、2018 年。
10. 授業時間外学習：授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。
授業後に、レジュメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：理論社会学特論Ⅱ／ Theoretical Sociology (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小松丈晃

コード：LM22407 科目ナンバリング：LIH-SOC602J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：理論社会学特論】

1. 授業題目：リスクと無知の社会学

2. Course Title (授業題目)：sociology of risk and non-knowing

3. 授業の目的と概要：講義形式で進める授業である。現代社会は、自然災害と科学技術が連動しあう複合災害のリスクに備えなければならない。この授業では、社会学的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとのつきあい方について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学に対する信頼や専門知の責任について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知（想定外）の間の捻れた関係、またそれがもたらす問題について、組織論の観点もまじえながら、考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This is a lecture-centered course.

We need to prepare against the risk of complex disasters in which the natural disaster and technological crisis occur simultaneously. This course is designed to help students understand the outline of sociological risk theories and gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks that face us. First, the sociological risk theories are reviewed. Then the public's confidence in science and the responsibility of the experts will be discussed. Finally, we consider the distorted relationship between risk, trust(or confidence) and ignorance and the critical problems resulting from this relationship.

5. 学習の到達目標：

・現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リスク論事始め
2. リスク社会学再考—U. ベックの社会学理論の検討—
3. 社会学システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論と E. デュルケムの観点
5. リスクと道徳 (1)
6. リスクと道徳 (2)
7. リスク社会と信頼 (1)
8. リスク社会と信頼 (2)
9. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み(SARF)
10. リスクガバナンスの考え方(1)
11. リスクガバナンスの考え方(2)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (1)
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業終了後のコミュニケーションペーパーへの記入内容と平常点 40%+学期末のレポート提出 60%で評価

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、必要なものを適宜指示する

10. 授業時間外学習：授業において、適宜、学習課題を出す予定

中間レポートも提出してもらいます

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：社会変動学特論 I / Theory of Social Change (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大井慈郎

コード：LM11309 科目ナンバリング：LIH-SOC603J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：社会変動学特論】

1. 授業題目：都市社会学：まちづくりのプロローグ

2. Course Title (授業題目)：Urban Sociology: Prologue of "MACHI-ZUKURI"

3. 授業の目的と概要： みなさんが思い描く「良いまち」とはなんだろうか？ 今日、「まちづくり」は学問領域を問わず言及される言葉である。一口に「まち」といっても、「人口の集積地」、「政治・経済・文化の中心地」、「地域社会と人間関係」など、切り口は多い。

この授業では、古典から現代に至る先行研究の紹介を通じて、都市社会学および関連分野の基礎的な知見を理解することを目的とする

講義とコメントペーパーを用いた質疑応答を中心として授業を進める。「まち」のもつ論点の多様さを理解し、一人一人が自分の興味関心について考えを深める機会としたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： What is the "good city" you envision? Today, "MACHI-ZUKURI" is a word that is mentioned in any academic field. There are many perspectives on "Cities", such as "population agglomerations", "political, economic and cultural centers" and "local communities and human relations." This class aims to understand the basic knowledge of urban sociology and related academic fields with introducing previous studies from classical to modern.

This course is centered on a lecture and a questions and answers session using the Reaction Paper. This course is to understand the various issues of "Cities" and give each student an opportunity to deepen their thoughts on interests.

5. 学習の到達目標：

1. 都市社会学の基礎的な知見を理解する。

2. 自分自身が「まち」を考える際の土台となる視点を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)： 1. To understand basic knowledge of urban sociology.

2. To gain the perspective needed to consider "cities" with your own interests.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1)

2. イントロダクション (2)

3. シカゴ学派 (1)

4. シカゴ学派 (2)

5. 郊外論の展開

6. 都市再編と新都市社会学

7. 都市再編と都市間競争

8. グローバル化と途上国都市

9. 都市から都市地域へ

10. 都市とコミュニティ (1)

11. 都市とコミュニティ (2)

12. 都市計画の視点

13. まちづくりの視点

14. 議論と総括 (1)

15. 議論と総括 (2)

8. 成績評価方法：

コメントペーパー (40%)、期末レポート (60%)。

9. 教科書および参考書：

毎回の授業でプリントを配布する。参考書は適宜紹介する。

References are handed out at every class. Recommended Readings will be introduced as appropriate.

10. 授業時間外学習： 期末レポートの作成に向けて、興味をもったトピックについて書籍や論文を探し、考察を深めておくこと。

Students need to find books and papers on topics of interest and deepen their understanding in order to prepare a final report.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他： なし

科目名：社会変動学特論Ⅱ／ Theory of Social Change(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：田代志門

コード：LM13211 科目ナンバリング：LIH-SOC604J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：社会変動学特論】

1. 授業題目：死と死にゆくことの社会学

2. Course Title (授業題目)：Sociology of death and dying

3. 授業の目的と概要：現代社会における死の問題の特徴は、かつてないほどの個人の選択の強調と医療の関与の増大にある。本講義では、終末期医療に関する様々なトピックを取り上げ、こうした現状を批判的に捉え直すことを試みる。なお、受講生には、授業で学んだことを活かして死に関わる興味深い現象を自ら見出し、その背景や意味について考察することが求められる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of ethical and legal issues in end-of-life care in contemporary Japan from sociological perspective.

5. 学習の到達目標：

終末期医療の現場で生じている様々な課題について基礎的な知識を得るとともに、それらの問題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students think about issues regarding death and dying from sociological point of view.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の進め方について
2. 現代社会における死 (1) 「死にゆく過程」の発見
3. 現代社会における死 (2) なぜ死生観が時代の問いになるのか
4. 「死ぬ権利」の社会学 (1) 安楽死・尊厳死とは
5. 「死ぬ権利」の社会学 (2) 誰のための尊厳死？
6. 死の社会学の系譜 (1) デス・スタディのなかの社会学
7. 死の社会学の系譜 (2) 死の何が「抑圧」されているのか
8. 中間まとめ
9. 終末期ケアの社会学 (1) ホスピス・緩和ケアの可能性と課題
10. 終末期ケアの社会学 (2) 耐え難い苦痛と鎮静 (セデーション)
11. 終末期ケアの社会学 (3) 未決の問いとしてのがん告知
12. 終末期ケアの社会学 (4) アドバンス・ケア・プランニングとは
13. 死生観の社会学 (1) 死者との邂逅
14. 死生観の社会学 (2) 受け継がれていく生
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

田代志門『死にゆく過程を生きる——終末期がん患者の経験の社会学』（世界思想社、2016年）

トニー・ウォルター『いま死の意味とは』（岩波書店、2020年）

10. 授業時間外学習：適宜、授業で指示した課題に取り組む。報告を求められた際には、教科書・参考書以外の関係する文献・資料にも目を通して報告資料を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

適宜、授業で指示した課題に取り組む。報告を求められた際には、教科書・参考書以外の関係する文献・資料にも目を通して報告資料を作成する。

科目名：社会学特論 I / Sociology(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：徳川直人

コード：LM13306 科目ナンバリング：LIH-SOC605J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：社会学特論 I】

1. 授業題目：質的フィールドワーク概論
2. Course Title (授業題目) : Methods of Qualitative Fieldwork in Sociology
3. 授業の目的と概要：社会学における質的方法の理論と方法について、より深く学ぶ。参加者はオリジナル教材を読み、資料収集、日常観察、フィールドノーツなどの実践を試みることで、理解を深める。その基礎のうえにたつて、モダンバージョンの理論・方法とポストモダンバージョンの理論・方法とのちがいについて学び、新しい基準、倫理なども理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will learn methods and theories in sociological qualitative inquiry in deeper meaning, and understand them through reading texts, and some practice of documents collection, observation of everyday life, and writing fieldnotes. On this ground, students will learn the difference between the modern version and the post-modern version of qualitative inquiry, and understand new criteria, ethics, and responsibilities as a researcher.
5. 学習の到達目標：
 - 1) 質的研究法の技法、考え方、意義と限界が、より深く理解できるようになる。
 - 2) フィールドワークやインタビューを実践できる必須素養が身につく。
 - 3) 調査のモラルと倫理、責任について、より深く考慮できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Through this course students will become able to 1) understand methods and theories of qualitative inquiry with their significance and limits in detail, 2) acquire enough knowledge to conduct some fieldwork or interview, and 3) make deeper consideration on morals, ethics and responsibilities as a researcher.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の順に講じる。各項目についての下読みおよび宿題が必須である。毎回の授業で参加者はキーワードの説明や質問を求められる。学期末には試験ではなくレポートを課す。

 1. 質的分析法入門
 2. 感受概念
 3. 方法としてのフィールドノート
 4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計
 5. 聞き書き
 6. インタビュー
 7. 自然主義的観察
 8. 参与観察
 9. グラウンデッドな接近法
 10. エスノメソドロロジー
 11. エスノグラフィー
 12. 事例分析とモノグラフ
 13. 生活史とヒューマン・ドキュメント
 14. アクション・リサーチ
 15. 調査倫理
8. 成績評価方法：

平常点 (50%) と学期末レポート (50%) を総合的に加味して評価する。
9. 教科書および参考書：

デンジン&リンカン『質的研究ハンドブック』、エマーソンら『方法としてのフィールドノート』(1995)、シュワント『質的研究用語事典』(2007)、細谷『現代と日本農村社会学』(1998) など複数を教室にて指示する。また、教材的読み物としてオリジナル資料を作成する。

Books and papers will be introduced in class, such as Handbook of Qualitative Research by Denzin and Loncoln, Writing Ethnographic Fieldnotes by Emerson et. al. (1995), Dictionary of Qualitative Inquiry by Schwandt (2007), Japanese Rural Sociology and the Modern World by Hosoya (1998), etc., with original texts written by the lecturer.
10. 授業時間外学習：各項目についての下読みおよび宿題が必須である。

Students are required reparatory readings and some home works.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：社会学特論Ⅱ／ Sociology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：佐久間政広

コード：LM12506 科目ナンバリング：LIH-SOC606J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：社会学特論Ⅱ】

1. 授業題目：農村社会と農村社会学

2. Course Title (授業題目)：Rural communities and rural sociology in Japan

3. 授業の目的と概要：本講義では、農村社会を理解するための基礎的な視角、および農村社会の歴史的变化に関する知見を社会学の見地から提供するとともに、農村社会学の誕生と展開について講ずる。あわせて今日の農山村社会の直面する諸問題、とりわけ過疎高齢化の深刻な山村の諸問題に関して理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provide an overview of the history of the development of rural sociology to help students understand the historical changes of rural communities in Japan.

5. 学習の到達目標：

①日本農村を理解するために必要な概念である家と村の基本的な特質について説明できる。

②日本における農村社会学の成立と発展の概略について説明できる。

③日本における農村社会の歴史的变化について大まかに説明することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students explain the history of the development of rural sociology and the historical changes of regional communities in Japan.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下の通りである。

1 オリエンテーション

2 農山村社会を理解する

3 村落社会における助け合い

4 村落社会における二つの共同

5 「交換」の視点から農村と都市をみる

6 家とは何か

7 村の誕生

8 高度成長期以前の農村社会

9 農業の近代化と農村社会

10 今日の農山村社会

11 鈴木栄太郎の自然村の理論

12 有賀喜左衛門の家連合の理論

13 竹内利美の講・組、年序階梯組織の理論

14 細谷昂の農村研究

15 まとめ

8. 成績評価方法：

授業への取り組み 50%、レポート 50%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書として、細谷昂『現代と日本農村社会学』1998年、細谷昂『家と村の社会学—東北水稲作地方の事例研究—』2012年 [No textbooks will be used. Students should take notes on their own.]

10. 授業時間外学習：新聞や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。[Students are required to collect information and topics related to the content of the class using newspapers and books.]

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：社会学特論Ⅲ／ Sociology(Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：太田健児

コード：LM23407 科目ナンバリング：LIH-SOC607J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：社会学特論Ⅲ】

1. 授業題目：フランス社会学史と現代思想

2. Course Title (授業題目)：History of French Sociology and Contemporary Thought

3. 授業の目的と概要： フランス社会学史を理解しその今日性を検討する。現代は各学問分野がそれぞれ越境する状況がさらに加速しており、狭隘な社会学理解に止まることなく、そのような越境模様をきめ細やかに迎っていくことが最重要である。これが、現代社会の諸問題に対するより適切な診断と処方とを可能にし、社会学のディシプリン再生につながる。それゆえ授業は、まずフランス社会学史を当時の社会背景との絡みで見直しながらも、今日の問題とリンクさせ、フランス現代思想のいくつかとの越境を見極めていく作業とし、最終的には社会学のディシプリン再生に収斂させた議論にしていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： This course addresses the history of French sociology and considers its modern-day relevancy. In recent years, various fields of study are intertwining at an accelerated pace. It is of the utmost importance to avoid a narrow view of society while carefully analyzing the ways in which various fields are overlapping. This approach to modern day problems allows for optimal diagnosis and solution development, and leads to the energization in the sociological discipline.

Therefore, this class will review the history of French sociology in light of its historical background while linking it to many problems we face today. We will take an interdisciplinary look at a few particular files, and discuss how our findings are convergent with generating sociological discipline.

5. 学習の到達目標：

1. フランス社会学史及びフランス現代思想の基本理論を理解する。
2. 社会学理論誕生の社会的背景と結びつけて社会学理論を理解する思考術を身につける。
3. 古典的理論が現在の問題解決にどのように寄与できるのか、その今日性を考える。
4. 各分野がこれまで越境しながら自らのディシプリンを形成し、今日もそれが続いている状況も理解する。
5. 最終的に社会学分野独自のディシプリンの在り方を考えていく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To acquire a basic understanding of French sociological history theory and contemporary French thought

2. To connect our finding with the historical context of birth of sociological theory and to develop the thinking skills necessary to understand sociological theory.

3. To discuss how classical sociological theory is relevant to our modern times and how it can aid us in solving problems of today.

4. To gain an understanding of how each field has formed its own discipline while intertwining with other field. We will also look at how this continues today.

5. To consider the ideal form of the sociology as its own unique discipline

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下に示す授業内容を講義・テキスト講読・ディスカッションなどを組み合わせて行います。進度、授業内容に関しては、受講生の皆さんの意見を尊重し適宜調整します。

- 1 社会学史研究の意義
- 2 フランス社会学史(1) ー実証主義の再検討の立場から：コント～デュルケーム以前ー
- 3 フランス社会学史(2) ー政教分離と社会思想ー
- 4 フランス社会学史(3) ー社会思想から社会学へ：デュルケーム『社会学的方法の規準』の誕生とその周辺
- 5 フランス社会学史(4) ーデュルケーム社会学の問題：社会实在論論争
- 6 フランス社会学史(5) ーデュルケーム『社会分業論』における人格概念
- 7 フランス社会学史(6) ーデュルケームのモラルサイエンスと社会学
- 8 フランス社会学史(7) ー『宗教生活の基本形態』から宗教社会学へ
- 9 現代思想と社会学(1) ー R. ベラー以降の市民宗教論とその現在ー
- 10 現代思想と社会学(2) ーボランティア不要論・偽善論とモースの贈与論ー
- 11 現代思想と社会学(3) ー社会運動・学生運動を知らない若者たちと A. トゥレーヌ以降の社会運動論ー
- 12 現代思想と社会学(4) ーフォーコーの今ー
- 13 現代思想と社会学(5) ーエビステモロジーと社会学ー
- 14 現代思想と社会学(6) ー先端社会論としての社会学的ディアボリズム論ー
- 15 社会学のディシプリン再生に向けて

8. 成績評価方法：

授業への取り組み 50% レポート 50%

9. 教科書および参考書：

教科書 デュルケーム研究会『デュルケームの論点』学文社 その他、必要に応じてプリント・資料を教場で配布する。

Handouts will be distributed in the class

参考書 各社会学者の原典(翻訳可)及び研究書。

Reading fundamental literatures of famous sociologists and philosophers is strongly recommended.

*J.M.Bertherot,2000,Sociologie Epistémologie d' une discipline,De Boeck.

(*この文献はあくまでもフランス語履修歴のある方にとっての力試し的な参考書なので、この講読を前提とした授業展開は行いません。)

(*This book is recommended to those who has studied french.)

1 0. 授業時間外学習： 学術論文、書籍、新聞・雑誌、ネットなどから授業内容に関する知識、情報、知見を貪欲に収集すること。

Students are recommended to acquire the knowledge, information and opinion related to the subject matter by using the articles, the journals, the books, the newspapers, the periodicals and the internet.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

一見すると古色蒼然たる授業内容に思えるかもしれませんが、それらを通した議論の中から今日性つまり問題解決理論としての有効性を抽出するようにします。

At first glance, the material covered in this class may appear to be ancient. However, as we discuss the material, we will look at how parts of the material can be effective regarding problem-solving theory.

科目名：社会学研究演習 I / Sociology (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小松丈晃

コード：LM15207 科目ナンバリング：LIH-SOC608J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：地域社会学研究演習 I】

1. 授業題目：質的社会調査法

2. Course Title (授業題目)：Qualitative Research Methodology

3. 授業の目的と概要：種々の質的社会調査の視点と方法を幅広く習得し理解を深めるとともに、それらを踏まえて、各自のテーマにそった質的データの収集・分析などを行い、毎回の報告およびそれに関する受講者間での徹底した討議をとおして、修士論文作成に向けて、質的社会調査の実践力を高めることを狙いとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to deepen the understanding toward a qualitative social research and to acquire the basic skills for collecting and analyzing qualitative data. Participants will be able to cultivate the practical abilities needed to conduct a qualitative research.

5. 学習の到達目標：

- ・質的社会調査の歴史と意義を理解できるようになる
- ・質的社会調査の方法にとってデータを収集・分析できるようになる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of the course, participants should be able to (1) understand the history and significance of qualitative research methodology and to (2) collect and analyze the qualitative data.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 質的調査と社会学
2. 質的調査の歴史
3. 質的調査の特徴と意義
4. 多様な質的データの収集・分析 (1)
5. 多様な質的データの収集・分析 (2)
6. 多様な質的データの収集・分析 (3)
7. 多様な質的データの収集・分析 (4)
8. フィールドワーク
9. インタビュー
10. 参与観察
11. 生活史
12. 会話分析とは
13. アクション・リサーチについて
14. 調査倫理について
15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点 50% + 提出物 (論文・レポート) 50% による

9. 教科書および参考書：

谷富夫・芦田徹郎編著『よくわかる質的社会調査・技法編』ミネルヴァ書房、2009 年
谷富夫・山本努編著『よくわかる質的社会調査・プロセス編』ミネルヴァ書房、2010 年
岸政彦ほか著『質的社会調査の方法』有斐閣、2016 年 ほか

10. 授業時間外学習：受講者は、毎回、次の授業で報告するための資料を作成すること

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：社会変動学研究演習 I / Theory of Social Change(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大井慈郎

コード：LM11404 科目ナンバリング：LIH-SOC609J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：社会変動学研究演習 I】

1. 授業題目：都市社会学：まちの描き方

2. Course Title (授業題目)：Urban Sociology: How to Sketch Cities

3. 授業の目的と概要： 「都市」は都市祭礼、都市空間、生活様式、コミュニティ、グローバル化、社会的公正、景観、格差など、様々な角度から論じられてきた。

この授業では、古典・現代の論文を読み進めることで、都市社会学の基礎的な知見を学ぶことを目的とする。

毎回、都市社会学の論文を取り上げ、その内容の概要、用いられている方法について、担当の受講生に報告してもらう。その報告をもとに、受講生全体でディスカッションを行う。一人一人が自分の興味関心について考えを深める機会としたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The theme "city" has been discussed from various angles, such as festivals, urban space, lifestyle, community, globalization, social justice, landscape, and inequality.

In this course, students read classic and modern papers to learn basic knowledge of urban sociology.

In every class, an assigned student gives presentations on urban sociology paper. Based on the presentation, students discuss the results and methods of the study. This course is to give each student an opportunity to deepen their thoughts on interests.

5. 学習の到達目標：

1. 都市社会学の基礎的な知見と文献を読む力を身につける。

2. 「都市」というテーマの、多彩な論点とその分析方法について理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To acquire basic knowledge of urban sociology and develop reading skills.

2. To understand the various issues of the theme of "city" and how to analyze them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. シカゴ学派 (1)

3. シカゴ学派 (2)

4. シカゴ学派 (3)

5. シカゴ学派 (4)

6. シカゴ学派 (5)

7. 新都市社会学 (1)

8. 新都市社会学 (2)

9. 様々な都市論 (1)

10. 様々な都市論 (2)

11. 様々な都市論 (3)

12. 様々な都市論 (4)

13. 様々な都市論 (5)

14. 議論と総括 (1)

15. 議論と総括 (2)

8. 成績評価方法：

授業での報告 (30%)、授業への積極的な参加 (30%)、期末レポート (40%)。

9. 教科書および参考書：

毎回の授業でプリントを配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：毎回、課題論文を事前に読んで授業に臨むこと。担当の回は、レジュメを作成する。

Students are required to prepare for the designated paper for each class. You need to write a resume for your assigned paper.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：社会変動学研究演習Ⅱ／ Theory of Social Change(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：田代志門

コード：LM22207 科目ナンバリング：LIH-SOC610J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：社会変動学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：調査から理論をうみだす技法

2. Course Title (授業題目)：Social Theory and Social Research

3. 授業の目的と概要：主要な質的研究法の一つであるグラウンデッド・セオリー・アプローチ (GTA) を取り上げ、そこで提唱された社会調査から理論を生み出す戦略を批判的に吟味する。今日、GTAには様々なバージョンがあるが、今回は出発点となった古典的なテキストを精読し、細かな技法としてではなく、社会学の研究方法論としてのGTAの可能性と課題を考える。この作業を通じて、社会学における理論と調査の望ましい関係を検討することが本演習の大きな目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of relationship between social theory and social research, focusing on Grounded Theory Approach.

5. 学習の到達目標：

- (1) グラウンデッド・セオリー・アプローチの概要を理解する
- (2) 社会学における理論と調査の関係について自らの見解を述べることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students understand Grounded Theory Approach and thinking about relationship social theory and social research critically.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 演習の進め方について
2. グラウンデッド・セオリー・アプローチとは (1)
3. グラウンデッド・セオリー・アプローチとは (2)
4. グラウンデッド・セオリー・アプローチとは (3)
5. グラウンデッド・セオリー・アプローチとは (4)
6. 『データ対話型理論の発見』を読む (1)
7. 『データ対話型理論の発見』を読む (2)
8. 『データ対話型理論の発見』を読む (3)
9. 『データ対話型理論の発見』を読む (4)
10. 『データ対話型理論の発見』を読む (5)
11. 『データ対話型理論の発見』を読む (6)
12. 研究例の検討 (1)
13. 研究例の検討 (2)
14. 研究例の検討 (3)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業内での報告・発言 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

B・G・グレイザー&A・L・ストラウス『データ対話型理論の発見』（新曜社、1996年）

木下康仁『グラウンデッド・セオリー・アプローチ』（弘文堂、1999年）

10. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：理論社会学研究演習 I / Theoretical Sociology(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小松丈晃

コード：LM12210 科目ナンバリング：LIH-SOC611J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：理論社会学研究演習 I】

1. 授業題目：リスクと不確実性の社会学

2. Course Title (授業題目)：sociology of risk and uncertainty

3. 授業の目的と概要：不確実性やリスクは、災害・環境・健康・科学技術・犯罪等といった多様な問題領域と関わり合いながら、昨今の社会学でも重要な概念の一つと目されるようになってきている。この授業ではリスクや不確実性に関する社会学の定評あるテキストを取り上げ、多様なテーマをリスク概念と関連づけながら議論していくことで、受講生とともに、「リスク社会化」する社会を、社会的にいかにかに論じうるかを探してみたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：“Risk” and “uncertainty” are treated as the basic concepts of sociology today. Those are related to the various subjects such as disaster, environmental problem, crime, and technological crisis. In this course, we will discuss the way to describe the modern society which has become a “risk society” through doing a close and careful examination of the text: “The Risk Society Revisited: Social Theory and Governance” by Eugene A. Rosa, Ortwin Renn, and Aaron M. McCright.

5. 学習の到達目標：

- ・社会学の専門文献の読解方法を習得する
- ・リスクや不確実性を社会的に論じるさいの基本的視角を学ぶ

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main goals of the course are:

- (1) Students will develop the reading skills to understand the sociological texts
- (2) Student will find a clue for addressing the problem of risk and uncertainty sociologically.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODクシヨン
2. リスク論の社会(科)学的基础(1)
3. リスク論の社会(科)学的基础(2)
4. リスクと社会理論(1)
5. リスクと社会理論(2)
6. リスクと社会理論(3)
7. リスクと社会理論(4)
8. システミックリスクの出現
9. リスクの類似概念：複雑性、不確実性、多義性
10. リスクガバナンスの考え方(1)
11. リスクガバナンスの考え方(2)
12. リスクガバナンス：分析的-熟議的過程(1)
13. リスクガバナンス：分析的-熟議的過程(2)
14. 結論
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業での発言・平常点 50%と各回の報告内容 50%による。

9. 教科書および参考書：

Eugene A. Rosa, Ortwin Renn, and Aaron M. McCright, 2014, “The Risk Society Revisited: Social Theory and Governance”, Temple University Press.

Lupton, D., 2013, “Risk(Second Edition (Key Ideas))”, Routledge.

ほか、第1回目の授業で指示する。

10. 授業時間外学習：受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキストを読み、授業時間までに、報告レジュメを作成し論点や疑問点を提示しなくてはならない。入念な予習と復習が要求される。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：理論社会学研究演習Ⅱ／ Theoretical Sociology(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：永井彰

コード：LM23508 科目ナンバリング：LIH-SOC612J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：理論社会学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：ハーバーマスの現代福祉国家論
2. Course Title (授業題目)：Habermas' s Theory of Modern Welfare State
3. 授業の目的と概要：Habermas の Faktizität und Geltung を邦訳書を手掛かりに精読し、ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造を理解するとともに、その理論的射程を解明する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to help students understand the logic of Habermas' s theory of modern welfares state by reading "Faktizität und Geltung".
5. 学習の到達目標：
ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造が理解できるようになる。
ハーバーマスの現代福祉国家論の理論的射程について、みずからの視点から論じることができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand the logic of Habermas' s theory of modern welfares state.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. "Faktizität und Geltung" の講読
 3. "Faktizität und Geltung" の講読
 4. "Faktizität und Geltung" の講読
 5. "Faktizität und Geltung" の講読
 6. "Faktizität und Geltung" の講読
 7. "Faktizität und Geltung" の講読
 8. "Faktizität und Geltung" の講読
 9. 内容についての議論
 10. "Faktizität und Geltung" の講読
 11. "Faktizität und Geltung" の講読
 12. "Faktizität und Geltung" の講読
 13. "Faktizität und Geltung" の講読
 14. "Faktizität und Geltung" の講読
 15. 総括討論
8. 成績評価方法：
毎回の授業での受講票の提出(50%)とレポート(50%)
9. 教科書および参考書：
ユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性』(上) 未来社、2002年。
Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung. Beiträge zur Diskurstheorie des Rechts und des demokratischen Rechtsstaates, Suhrkamp, Frankfurt am Main 1992, ISBN 3-518-28961-6.
10. 授業時間外学習：予習：テキストを精読する。
復習：テキストについて理解したことを読解メモにまとめる。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：社会学研究実習Ⅰ / Sociology (Research) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時、前期 金曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：小松丈晃

コード：LM15303 科目ナンバリング：LIH-SOC615J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：社会学調査実習Ⅰ】

1. 授業題目：社会調査実習（1）
2. Course Title (授業題目)：Sociology (Research) I
3. 授業の目的と概要：社会調査実習（1）の目的は、次の2点である。（1）社会調査の理論と方法を理解する。（2）社会調査のための問題設定、仮説構築を行う。この授業では、社会調査の基礎と概要（意義・種類・方法・歴史・課題・調査倫理など）を学ぶとともに、社会調査実習（2）で予定されている現地での調査実施に向けた準備作業までを行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to acquire the basic skills and knowledge needed to conduct a social research. In this course, students learn about the importance of qualitative research and about types of social research, methods, historical background, and problems of it. Students must also make preparations for the field work.
5. 学習の到達目標：
 - ・社会調査のための基本的な方法を習得する。
 - ・社会調査を行うための仮説構築を行えるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, participants should be able to (1) understand the methodology of social research and to (2) develop a research question and construct a hypothesis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 社会科学と社会調査
 2. 社会理論と社会調査
 3. 社会調査における価値・倫理
 4. 社会調査の方法（1）
 5. 社会調査の方法（2）
 6. 社会調査の方法（3）
 7. 社会調査の方法（4）
 8. 社会調査の方法（5）
 9. 問題の設定（1）
 10. 問題の設定（2）
 11. 既存調査の検討（1）
 12. 既存調査の検討（2）
 13. 仮説の構成（1）
 14. 仮説の構成（2）
 15. 調査対象の選定
8. 成績評価方法：

授業への出席と発言 50%+（ミニレポートも含めた）課題レポート 50%
9. 教科書および参考書：

参考文献は、授業で適宜、指示します。また、適宜、必要な資料を配付します。
10. 授業時間外学習：毎回、課題が課されますので、受講者は、次の授業までに入念な予習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：社会学研究実習Ⅱ／ Sociology (Research) II

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時, 後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小松丈晃

コード：LM25301 科目ナンバリング：LIH-SOC616J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：社会学調査実習Ⅱ】

1. 授業題目：社会調査実習（2）

2. Course Title (授業題目)：Sociology (Research) II

3. 授業の目的と概要：社会調査実習（2）の目的は次の2点である。（1）インタビュー調査の技法を習得する。（2）設定したテーマに関して社会調査を実施し、その分析を行う。この授業では、社会調査の技法について理解を深めるとともに、社会調査実習（1）で行った準備作業を踏まえて調査を実施する。その過程をつうじて調査と分析の技法を習得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to (1) improve the practical skills of students for interviews and to (2) conduct a qualitative research based on these skills and to analyze the data appropriately. In this course, students will deepen the understanding toward the research techniques and be able to conduct a qualitative social research (at Miyagi or Iwate prefecture).

5. 学習の到達目標：

- ・インタビュー調査の技法を習得する。
- ・設定したテーマについて社会調査を実施しその分析を行えるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The main goals of the course are:

(1) The Student will develop the skills needed to conduct interviews.

(2) The Student will be able to conduct a qualitative social research and to collect and analyse the data appropriately.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 調査の企画
2. 調査項目の設定（1）
3. 調査項目の設定（2）
4. インタビューの技法（1）
5. インタビューの技法（2）
6. インタビューの実施（1）
7. インタビューの実施（2）
8. 調査結果の処理（1）
9. 調査結果の処理（2）
10. 調査結果の分析（1）
11. 調査結果の分析（2）
12. 調査結果の分析（3）
13. 調査報告書の企画
14. 調査報告書の作成
15. 調査報告（口頭発表）

8. 成績評価方法：

授業への出席と発言 50%+（ミニレポートも含めた）課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

参考書は、授業の中で適宜、指示します。また、必要に応じて、資料を配付します。

10. 授業時間外学習：毎回、課題が課されますので、受講者は、次の授業までに入念な予習が求められます。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし